



設立趣旨

CBGM こども財団は、こどもたちを巡る貧困、虐待、いじめ、孤立などの課題解決ならびに教育、芸術文化などの振興・支援に取り組んでいる諸団体への助成・寄付等を目的として設立されました。環境問題や教育格差、自然災害など、不安定要因が増す中で、社会が健全な発展を続けていくためには、こどもたちが健やかに成長し、幾多の困難を克服して未来を切り開いていくことの支援が重要であるとの認識の下に活動を推進しています。



©Naomi Kojima

専門家との勉強会を開催いたしました

CBGMこども財団は、設立4期目に入り、財団設立の趣旨にもあります「こどもたちを巡る貧困、虐待、いじめ、孤立などの課題解決に繋がる活動とはなにか」を改めて考えていくことにいたしました。まずは「子どもたちのおかれた現状」を知るために、滋賀県にありますNPO法人こどもソーシャルワークセンター理事長の幸重忠孝様による勉強会を2024年12月13日に開催いたしました。今回はそこでの学びについて、共有いたします。

■ 相談できる子どもは少ない

子どもにとっては、生まれた家庭がすべて。その子の家庭環境が、その子の生活の基準をつくっていきます。自分の家庭環境に問題があるのかないのか、助けが必要な状況におかれているのか気づくのが難しいのです。成長が進み、自分の家庭環境に違和感を持つようになって、困っていることを口に出して相談できる子どもは少ないとのこと。能力的に説明ができない子もいれば、自分の家庭環境を知られたくないという気持ちが先行する子どもも多いようです。

■ 見た目だけではわからないことが多い

「こども食堂」を利用する子どもに対して、食べるものがなく、痩せている子を想像していましたが、実際には肥満の子も多いようです。3食食べられていないが、お菓子やジャンクフードでお腹を満たし、肥満体形になっていくとのこと。また、貧困家庭の子どもの携帯電話所有率は高く、子どもの持ち物で家庭の経済状況を判断することはできないようです。家庭内の暴力による怪我は、洋服で隠れる場所にできていることが多く、児童センターでの入浴等で服を脱いで裸になった際に発見されるそうです。

■現在の福祉制度・支援の現状について

現在の福祉制度は、申請をベースに支援が受けられる仕組みで運用されています。申請ができない人は支援が受けられません。また、虐待されている子どもの支援についても厳しい状況のようで、虐待を受けている子どもが50名いた場合、1名(生死の危険がある場合)は児童養護施設へ入所、4名は1週間～2週間の一時預かりなどの対応が受けられますが、残りの45名は「見守り支援」で終わってしまい、引き続き虐待の危険がある家庭で生活をします。また、個人情報保護の規則により、支援団体などに情報が共有されず、必要な支援から漏れてしまうケースもあります。

■わたしたちの学び

今回の勉強会では、子どものおかれた状況を正しく知るのとは、とても難しいことを学びました。また、こども家庭庁の設立、こども食堂の増設など「こどもの健やかな成長」を支える社会環境が整いつつあるように思っておりましたが、3食食べられない、家に明かりがない、清潔な環境で生活できていないなど、生きていくために必要最低限のことが足りていない子どもが多い現状と、必要な支援が届いていない現実を認識しました。次回も勉強会での学びをお届けする予定です。

第三期監事監査が終了いたしました

2024年11月10日に監事による監査を行い、無事に終了いたしました。今回は、7月に新しく監事に就任された春原和夫様による初めての監査でした。①定款や規程に沿って運営されているか②財務の健全性はどうか③日常業務のチェック体制はどうなっているのかなどの観点から質問があり、書類の確認や事務局長から手続き等の説明などを行いました。春原様からは「ドナルド・R・クラッシーさんの言葉にあるように、任せっきりにしてチェックが疎かになると「動機・機会・正当化」の環境が整い、不正行為が発生しやすくなります。そんな事まで質問するかとびっくりされたと思いますが、あえて従来と違う観点から色々質問させて頂きました。監査を通じて、しっかり管理されているという事を実感致しました」と、フィードバックがありました。無事に終了しましたが、証跡が不十分なプロセスもありましたので、チェックの体制の再構など、改善に向けた取り組みを引き続き進めて参ります。



<助成先活動報告 1>

「特定非営利活動法人 Alopecia Style Project Japan (ASPJ)」 ヘアロスキッズとその家族のための「スポーツ de STAND UP!」事業

2024年9月13日、14日に、特定非営利活動法人 Alopecia Style Project Japan (ASPJ) 様の「ヘアロスキッズ*とその家族のためのスポーツ de STAND UP!」が千葉県勝浦市で開催されました。

Alopecia Style Project Japan (ASPJ) 様は、髪に症状があることをハンデにしない社会を目指し、ヘアロス当事者が、自分のことを理解し「このままでもいいんだ!」と思えるような機会の提供や、偏見・思い込みなどの社会の見方の変革に繋がる活動を続けておられます。今回の助成事業は、ヘアロスキッズがヘアロスに対する経験を自信に変えるきっかけとして企画され、2日間のイベントでは、プール遊びを楽しむ時間や、ヘアロスの先輩当事者との対話時間、またヘアロスキッズの家族(親)を対象としたワークショップや親同士の交流の時間も組み込まれており、ヘアロスキッズだけでなく、当事者家族のマインドチェンジも期待できる内容です。

全員が同じ宿泊施設で2日間を過ごしたことで、自然と仲良くなれて、同じ仲間がいるという安心や嬉しさを更に感じた時間になったとのことでした。また、普段はウィッグが外れてしまう不安やウィッグが痛んでしまう心配などから、なかなかプール遊びに踏み出せない子どもが多い中で、他の人の目を気にせず思いっきり水を感じて楽しむことができ、最高の思い出になったようです。

今回の助成事業は、こどもたちの健やかな成長を支える「相談できる人・場所があり、必要なサポートが受けられる」環境・社会づくりに繋がる活動となりました。本事業の様子は、下のQRコードから、動画でご確認いただけます。

*ヘアロスキッズ: 脱毛症、抜毛症、乏毛症、無毛症、治療による副作用など、様々な理由より髪に症状を持つ子ども。日本では100人に1人は毛髪症状があるとされています。



ヘアロス啓発イベント2024スポーツ de STAND UP!



<助成先活動報告 2>

「一般社団法人 みんなのピアノ協会」 児童養護施設に対するピアノ学習プログラム提供事業

みんなのピアノ協会様は「すべての子どもたちにとってピアノ学習を手の届くものにする!」をビジョンに、2024年5月に設立された団体です。本団体の「ピアノ学習プログラム」は、ピアノ学習アプリ(Simply)+電子キーボードを使用した自主学習にあわせて月に2回のピアノ教師によるレッスンを提供するもので、子どもの自主性を大事に、楽しく学ぶことに重点をおいて設計されています。

代表理事の中村様は、本プログラムを、よりたくさん子どもたちに届けるために奔走中です。助成申請時は「4施設—児童28名」にプログラムを提供する予定でしたが、導入希望が「6施設—児童60名」となり、電子キーボードとピアノ学習アプリ(Simply)を起動するためのタブレットの手配、施設にレッスンに行ってくれるピアノ教師探しなど、やることは山積み。特に、ピアノ教師探しは難航したようです。そもそも地方(特に観光地)にはピアノ教師が少なく、あわせて、子どもの気持ちを尊重したレッスンをしてくれる、子どもが弾きたいと思う曲で練習をさせてくれる先生を探すのは本当に苦労したとお話してくださいました。その頑張りが報われ、特に難航したという2施設計13名の児童のレッスン開始の目途が付き、大変喜んでおられました。

本プログラムを導入している静岡県沼津市の「松風荘(児童養護施設)」様では、現在、将来保育士になることを目標にしている中学生2名と、そんなお姉さんに憧れる小学生1名が、本プログラムを活用し、ピアノに触れる生活を楽しんでいます。10月27日には、施設内でミニ発表会を開催し、ピアノ教師も驚くほど上達しているとのことでした。

活動をスタートして半年、まさに「好きこそ物の上手なれ」、子どもの可能性に驚かされる毎日です。施設の職員様との話の中で、ピアノを気軽に試したい、触れてみたいという「ピアノを習う」手前の「体験」をしてみたいという子どもが多いことがわかりました。来年は、ピアノを知る「きっかけ」づくりにも着手していきます。また、将来的には、自団体での「オンライン学習ツール」の開発や、ひとり親・生活保護家庭の子どもに対しても、ピアノを通じた教育格差の解消に取り組んでいきたいと考えております。

<代表理事 中村 聡 様>

助成金給付による助成事業支援を行う団体・財団は、実績を重視する団体が多く、「みんなのピアノ」様のように、設立間もない団体が助成を申請することが難しいようです。CBGM子ども財団では、過去の実績だけでなく、助成事業自体が「こどもの健やかな成長」を、心、体、環境・社会の面から支える事業内容であるか、子どものニーズにあった先駆性や独自性のある内容であるかなどの選考基準を定めています。今後も、他の団体・財団とは違う視点で助成活動選考を行うことの必要性を感じました。

